



窯焚き：横焚き中



唐津焼発祥の地、飯洞甕窯跡(古窯の森公園)手前にあります



古唐津や初期伊万里の陶片からいろいろ学びます



窯の出入り口、ここから窯詰め・窯出し・横焚きをします。



窯の中で倒れくっついた一輪挿しに椿を生けました



正仁の「仁」の人偏と二を重ねてサインにしています



唐津の原土や砂などを混ぜた原土で土味を工夫します



南森 正仁
Masahito Minamimori

学生時代に茶道を習い、各地の焼物の中から古唐津にひかれた。赴任地に唐津焼の佐賀県を希望。長崎担当になり唐津焼や磁器の古窯を見て回る。早期退職し、飯洞甕窯跡近くに窯築する。

- 駐車場
- 作業風景見学
- 体験教室
- 要連絡

窯印・作家印▶

龍仁窯

リュウジンガマ



唐津焼をこよなく愛し、早期退職して唐津焼作家になったという南森さん。唐津焼に対する情熱は誰にも負けない。「古唐津研究会に入って「唐津の土見せ」と呼ばれる古唐津の歴史を紐解き、素材や製法・技術に対する研究を続ける。古陶片に学び、一歩ずつでも古唐津に近づきたい、新しい物を生み出したいという努力が楽しくて仕方ないという南森さんの好奇心が作陶の原動力だ。

使う毎に侘び寂びが生まれ、何とも言えない豊かな味わいを生み出す唐津焼。「自分の作品はまだまだ」と謙遜しながらも、その理想の味わいを求めて日々試行錯誤を繰り返す。「椿や野の花が好きなので花入れをよく作っています。お料理の生える食器を作っていきたい」と意気込んでいます。

飽くなき探究心が作陶の原動力。